スラム吉田寮

ZR

１年前吉田寮に入寮した当初は、吉田寮が嫌いでした。どこにも横たわる人間、たばこ、酒、マージャン、写真で見たアヘン窟を思い出させるぐらいの雰囲気です。いかに頭が良くて、やっと京大に入った成功談を口にしながら、ただの飯を探す一回生。いかにも、世俗で、貧乏くさいです。食物残渣が積もっているコンロ、汚い布団と漫画が随所に散乱している事務室。薄暗い廊下、堆積した荷物とごみ、吉田寮に入ったら、とても明るい気持ちにはなれません。消えない人と人との距離感。ほとんど学生全員が入る中国の学生寮の暖かさがありません。青空の下、陽光を反射する瓦葺きの食堂がきれいでした。大きな×を付けられた京都帝国主義大学の落書きや、文化部室にかかるチェ・ゲバラの写真は、面白かったですが、現実はただ飯探しという世俗さです。吉田寮に入る感じを率直に言うと、学生寮ではなく、スラムです。もちろん、僕もこのスラムのせいで、まだ生きているやつらの一員です。毎日白菜とそばをお湯で煮て、楽しく食べている僕は、まさに貧乏くさいやつの良いお手本です。

スラムですから、中に住むのはまともな人間でないと思われるのは至極当然のことです。吉田寮の取り壊しに対する反対も、既得利益者が、何かの理屈を立てながら、既得利益を必死に維持しようのと似たものでしょう。釜が崎などに入ったら、違った世界に入る新鮮さで、おもしろいなあと感じるでしょう。吉田寮に観光とか見学とかで来た人も、似た気持ちで来るのでしょう。しかし、入寮ということは、見学と違って、スラムで生活し、その環境に適応しなければならないことを意味します。スラムの自由自在さを楽しむやつもいるし、スラムの雰囲気が気に入らないやつもいます。

僕は、貧乏なくせに、後者の部類に入る最悪のやつです。しかし、この僕でさえも、汚いスラムに慣れてしまったのか、吉田寮の面白さを楽しむようになりました。

入寮して１ヶ月経ったあと、毎晩ゲームがされる旧印刷室から逃げ出し、C11 に入りました。すると、僕も C14 という誰でも自由に出入りできる、サロンみたいなところをよく訪れる人間になりました。毎日ねこにえさを与えにくる、もの知りですけど、ふらふらしているやつ、自転車で１年間ユーラシア大陸を放浪するなど、いつパタンと死んだと聞いてもおかしくないや

つ、そもそも人間本位がおかしいと主張する針灸の医者、ちょっとラーメンを食いに行くと言い、オートバイに乗り、時速 300 キロで奈良まで行く不良青年、日課として、夜中お酒を飲み、僕と一緒に「Deutschland über alles」を歌うアルコール中毒の博士、などなど、よくもこんなやつらが集まるもんだなあという感じです。

こんなやつらから想像できないぐらい面白い話をたくさん聞きました。製薬会社同士の「こんにゃくのぶつかり」というぬるぬるの競争振り、マンガンを運ぶ鉄道が廃れて、交通不便になった愛媛の山村、40 年前、この京都で会津小鉄会と警察たちと拳銃で銃撃戦、最大の輸出品目が医者で、世界医療のフロンティアを開拓しているキューバ、高い医療費を払えない貧乏人がいくらでもいて、新薬の臨床実験が簡単にできるアメリカ、意外にも西洋文化に開放的なイラン。いろいろな視点から見た世界が伝わるし、誰が自分の考えを述べても、必ず他の考え方や価値観から、それは違うよという人がいます。

吉田寮というところでも、6 年前、中庭の人が鶏を養い、その鶏が毎朝早く啼き、どういっても聞いてくれないので、耐え難い寮生が交渉に行き、その晩、鶏を殺させて、飼い主が急いで食べたという荒々しいところでした。

10 年前、今サラリーマンになった寮生が、集団入寮した女団連のやつの布団を窓の外に投げ捨てました。「ヤクザと黒いヘルメットに近づくな」という時代から、吉田寮は思想の自由を徹底的に保ってきました。今はもう緩んで、どう呼んでも構いませんが、10 年前は「さん付け禁止」というのがずっと厳しかったです。年下でも年上でも、寮生同士は「さん」をつけて、呼んではならないということです。執行委員でも一回生、二回生がやり、にこにこして、新入生（特に女の子？）と雑談をするずいぶん年上のやつがよく見られます。年をとったほうがいいと思う人もいるし、年上のほうが馬鹿と思う人もいますから、先輩後輩など、統一した価値判断は吉田寮に有り得ないんです。

在寮資格の確認や寮費の支払いなど、寮の存続のためになくてはならないことは、だれでもルールに従わなくてはなりません。2 ヶ月ぐらい前、僕は 40 代の寮生が、在寮資格確認の最終日に、東京から戻り、慌てて用紙が収めてあるところを一回生の女の子に教えてもらい、いろいろの担当の一回生たちに提出する狼狽振りを見ました。お茶の水博士のモデル、世界で始めて人工心臓に成功した渥美和彦に、彼が住んでいた北寮何号の札を記念として送ろうと思う寮生はいましたが、いくら偉い人でも、私物でない文化財の札

を送ってはならないとして、取り消しになりました。

今サラリーマンになった寮生が、筋膜炎になるぐらい、ゲームを連日やりました。同じ人が、執行委員として、だれもやりたくない、寮の公共の場の仕事をバンバンやりました。にこにこしながら敬語を使う上品な元寮生は、身長185センチ、不良が見ても恐れる人でした。

吉田寮というところは、相反対するものが並存します。どんなに変わった人間でも、あるいはどんなに正常な人間でも吉田寮で見つかることができます。陰気なやつもいるし、明るいやつもいます。けちなやつもいるし、お金などを気にしないやつもいます。大事な吉田寮を残したいやつもいるし、吉田寮なんか取り壊してもいいんじゃんというやつもいます。1年間単位ゼロのやつもいるし、三人分の院生の仕事をして、週2回しかベッドにつかないやつもいます。炊事場の地面に何気なく水をこぼすやつもいるし、その対策に苦慮するやつもいます。酒に酔った後、公共の場を荒らすやつもいるし、見かねて後始末をするやつもいます。吉田寮がこうだと思ったら、必ずそれと反対するものが吉田寮のどこかに存在しています。ですから、だれでも吉田寮で好きな人間を見つけることができるし、また、かならず嫌いな人間とも一緒に生活します。「仏が阿弥陀を説く、阿弥陀が是に非ず、是が阿弥陀と謂う」のように、吉田寮でありながら、吉田寮ではないというものが、いわゆる吉田寮でしょう。突然思いついたけど、好き嫌いという考え自体がそもそもおかしいかもしれません、入寮1年足らず、さとるに程遠い僕ですから、好き嫌いの眼で世界を見たくとも、まあ、いいんでしょうね。

吉田寮に反対論がいくらでもある以上、何か主張すると、理屈を立てるのにいろいろ考えなくてはなりません。現在の日本は、誰でも今のままではだめだと知っているのに、保守と閉鎖に走りつつあります。成金の先進国であるせいかもしれませんが、どこでも上下関係を立てて、目は上にしか向けません。日本は先進国から学んだものを、誇り気に後進国に教える役でした。しかし、今はなにか日本独自のものを考え出さないと、この日本国が困るという時代になったかもしれません。どんなものに対しても、たくさんの「反」があるスラム吉田寮は、何かを思考するのに、格好の場所になるかもしれません。もちろん、日本国のことなんかどうでもいいと思うやつもいますが、ほら、やつが来た！